



# みなみっ子

25号

令和7年11月25日(火)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

学校教育目標

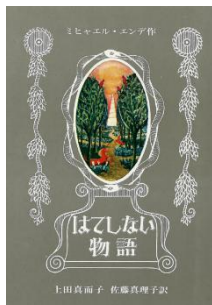
○かしこく

○やさしく

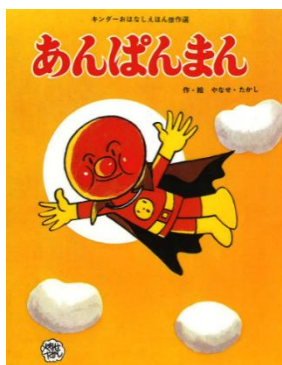
○たくましく

## 5年生の国語の学習

5年生の国語の1学期の単元に「作家で広げるわたしたちの読書」があります。この単元では作家に着目して、読みを広げることを目標としていて、ミヒヤエル＝エンデさんが紹介されています。ミヒヤエル＝エンデさんの「モモ」の一部が教科書に掲載され、「はてしない物語」「魔法の学校」なども紹介されています。これらの本は、ページ数も多く、読書が苦手な子にとってはハードルの高いように思えますが、内容はファンタジーの世界なので、読み始めると夢中になると思います。



このような授業をきっかけとして、本の魅力がわかる子が一人でも多くなればと思います。保護者皆さんの中には、この本を懐かしいと思う方もいると思います。この機会に読み返してみると、子どもの頃の読み違う捉えができて面白いですよ。



5年生の2学期の単元に「やなせたかし アンパンマンの勇気」があります。アンパンマンを取り扱うと知ると、5年生で？と疑問を持つ方もいると思います。この単元では作者であるやなせたかしさんの生き方を知り、どの様な想いで「アンパンマン」が産み出されたのかを知って「アンパンマン」を読んでみると、作者の深い想いが伝わってきます。左の絵本の表紙を見て、何か気づきませんか？タイトルがひらがなで書かれています。初期の頃の絵本で、絵のタッチも今とは違って、バイキンマンもドキンちゃんも出てきません。アンパンチもありません。

絵本のあとがきを添えます。読んでみると、作者の深い想いが伝わってきますか？

## あんぱんまん について

やなせたかし

子どもたちとおなじに、ぼくもスーパーマンや仮面ものが大好きなのですが、いつもふしぎにおもうのは、大格闘しても着ているものが破れないし汚れない、だれのためにたたかっているのか、よくわからないということです。

ほんとうの正義というのは、けっしてカッコいいものではないし、そして、そのためにかならず自分も深く傷つくものです。そしてそういう捨身、献身の心なくしては正義は行えませんし、また、私たちが現在、ほんとうに困っていることといえば物価高や公害、飢えということで、正義の超人はそのためこそ、たたかわなければならないのです。

あんぱんまんは、やけどだらけのボロボロの、こげ茶色のマントを着て、ひっそりと、はずかしそうに登場します。自分を食べさせることによって、飢える人を救います。それでも顔は、気楽そうに笑っているのです。

さて、こんな、あんぱんまんを子どもたち、好きになってくれるでしょうか。それともやはり、テレビの人気者のほうがいいですか。

出典 あんぱんまん 1976年 フレーベル館より

学校便り 24号と今回の25号では、学校での学習内容について取り上げてみました。学校の学習内容は多岐にわたり、子どもたちにとって興味を示さないものもあると思います。しかしながら、じっくりと考えながら、そして楽しみながら、ワクワクして取り組むと、その楽しさは無限に広がります。各教科にはそれぞれの楽しさがあり、深さがあります。それらを食わず嫌いでいるのにはもったいないです。また、学校での学習を、テストの点数を高めるためだけのものとして捉えてはもったいないと思います。

先人が創り上げてきたものが、各教科の中に凝縮されています。世の中には自分たちが知らないことが沢山あります。それらを知る一つのきっかけが学校での学習です。自分で勝手に、この教科は嫌いだ、苦手だとか決めないで、まずは教科書をじっくり読んでみることや、授業で積極的に取り組むことをやってみましょう。今よりも少し積極的になるだけでも、学習の楽しさを味わうチャンスは増えます。ことわざに「馬を水辺につれていけても、水を飲ませることはできない」とあります。自分自身のやる気のスイッチを入れてみましょう。